

彦根市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、幅広い地域住民等の参画により、一人ひとりが当事者意識をもって「地域学校協働活動」を推進し、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民等の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

・実行委員会の開催（年2回）

第1回 書面会議 6月18日(木)事業に関する資料配布

7月2日(木)新型コロナウイルス感染予防対策や活動の工夫の書面交流

第2回 WEB会議 1月26日(火)各本部の実践交流・次年度に向けた協議

・学校訪問（10～11月）

各支援地域協議会（委託先）とコミュニティ・スクールの計10小中学校を訪問し、地域学校協働本部事業、地域未来塾事業、コミュニティ・スクール推進事業の進捗状況の把握と助言を行った。

■本年度の成果

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校と地域の連携・協働のもと、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。
- ・コミュニティ・スクールの理解や設置促進に向けて、市の広報に特集記事を掲載した。
- ・社会教育委員の会議において、コミュニティ・スクール設置に向けた研修や協議等を行い、地域からコミュニティ・スクール設置の機運を高めようとする取組を始めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・地域未来塾の学習支援員をはじめ、事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化する傾向があるため、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では以前から同様の役割を担う地域コーディネーターを配置していることから、地域学校協働活動推進委員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

来年度新たに2校で1つの学校運営協議会を立ち上げ、本市の学校運営協議会は5協議会（6校）となる予定である。今後は、これまでに学校運営協議会設置校の取組の成果と課題をもとに他校へのスムーズな導入につなげていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・読み聞かせは、校内テレビ放送の活用やマスク・フェイスシールドの着用などの対策を講じて実施した学校が多いが、臨場感を持たせながら、子どもたちが密集しないようにする場の工夫が難しい。
- ・地域未来塾では、個別指導による密接を避けるため、対面しないことや衝立を間に置くなどの工夫をして、各校の状況に応じてその実施に努めた。
- ・支援してくださる地域の方が高齢者であることが多く、感染リスクを避けるために活動を縮小・中止する選択をせざるを得なかった学校が多い。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

【取組状況】 ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

市内の公立幼稚園、小学校、中学校すべてに地域学校協働活動推進員を配置し、地域住民の力を学校教育に活用するため、「地域学校協働本部」を設置し、支援体制の強化を進めている。

学校運営協議会設置校園（コミュニティ・スクール）の拡大に伴い、地域と学校の協働体制の構築に重点を置き、学校・家庭・地域が連携し、同じ目標を持って子どもに向き合っている。

■本年度の具体的活動

5月～8月 各校園の第1回学校運営協議会への出席および説明
（合計12校園）

10月23日（金）コミュニティ・スクール研修会（1回目）

11月19日（木）コミュニティ・スクール研修会（2回目）

1月5日（火）管理職研修会でコミュニティ・スクールについて研修

1月22日（金）学校を核とした地域力強化プラン事業成果報告会



【CS研修会】

■本年度の成果

- ・コミュニティ・スクールの拡大に併せ、地域学校協働活動のねらいや運営方法の見直しも進み、地域と学校の連携のあり方や、めざす子ども像について地域と学校が改めて考える機会になっている。
- ・放課後子ども教室を設置している小学校では、元教員や専門的な知識を持つ学習支援員が、自分の得意分野を活かして、教員とは異なった視点で子どもを見つめ、幅広い学力をつけることができている。地域の大学生が支援員としてかかわっている小学校もあり、支援の輪が広がりつつある。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・管理職や地域学校協働活動推進員に対する研修は、今年度3回行ったので、コミュニティ・スクールについての知識理解は進んだが、すべての教員に対して研修を行う必要がある。
- ・すべての小学校に放課後子ども教室を設置することを目標としているが、人材や場所の確保等で、設置が難しい小学校もある。まちづくり協議会など、地域住民の理解と協力を得ながら、設置に向けた動きを進めなければならない。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・社会教育法および、本市が制定した「地域学校協働活動推進員設置要綱」に基づき、市内の25校園に設置している地域学校協働本部にそれぞれ1名の地域学校協働活動推進員を配置し、委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内には、8つの公立幼稚園およびこども園、12の公立小学校、4つの公立中学校がある。令和2年度現在、学校運営協議会を設置しているのは、幼稚園が2園、小学校が8小学校、中学校が2中学校である。令和3年度には市内すべての公立幼稚園、小学校、中学校に学校運営協議会を設置し、21校園がすべてコミュニティ・スクールとなる。
- ・コミュニティ・スクールへの移行に対して、大きな不安を持っている校園があるため、設置済みの校園はもちろん、今後設置予定の校園に対しても、ていねいな説明をしていく必要がある。

■コロナ禍における対応・工夫・および課題

- ・地域住民との直接的なふれあいは減ったが、児童生徒が使用するマスク作りや消毒作業など、安心・安全な環境整備の面でボランティア活動が展開される校園が多数あった。

草津市における地域協働合校の取組

【取組状況】 ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげている。

人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、地域の大人が子どもたちと共に地域・学校をより良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。



【 情報交換会 】

■本年度の具体的活動

(1) 運営委員会

第1回（4月9日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と学校運営協議会との連携推進について

第2回（8月28日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修・意見交換

第3回（2月3日）総括会議 一年の振り返り、実績報告書について説明

(2) 地域コーディネーター

業務説明会（4月16日）地域コーディネーターの機能と業務について【資料送付のみ】

情報交換会（7月15日）1学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換

総括会議（1月27日）一年の振り返り、来年度に向けての課題共有

(3) 地域協働合校全体研修会（11月11日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、
小中学校PTA、まちづくり協議会地域協働合校推進委員、
地域まちづくりセンター職員、市関係課職員

内容：講演と活動報告を行い、今の子どもたちに必要な支援や方法は何かを考えるとともに、地域と学校が双方向の連携・協働を作り出すための熟議の必要性など、今後の事業展開につなげるための意見交流



【 第2回運営委員会 】

(4) 広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を年6回発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、
庁内掲示、草津市HP掲載

■本年度の成果

継続した支援と、地域の特色を生かした事業実施の結果、文部科学大臣表彰を受賞できる取組へと発展している。地域コーディネーターが学校運営協議会の一員として会議に参画することで、現状を踏まえた活動についても熟議され、児童・生徒の体験的活動を支える基盤となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

高齢者の重篤率が高いコロナ禍でふれあう機会が減りつつある中で、ICTを取り入れるなど、より安全・安心な活動方法の検討が必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年4月から地域学校協働活動推進員として委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年4月から市内全小中学校（計20校）に学校運営協議会を導入している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

ICTを活用した現地と教室をつなぐリモート授業を取り入れた。一部の学校では市内にとどまらず県内外へと交流の場を広げた学習となったが、機器の数量不足や通信環境の乱れによる授業遅延も見られた。

栗東市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校・家庭・地域の協働と互いの支援で「自己肯定感が高く、笑顔にあふれた子どもを育むまち」を基盤に、緊密な連携をはかりながら、『心豊かにたくましく生きる 人の育成』を目標とします。

■本年度の具体的活動

地域学校協働本部事業を1中学校区で、放課後子ども教室事業を2小学校区で実施しました。会議等は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域学校協働本部事業は書面決議等に変更したこともありましたが、放課後子ども教室は感染症対策を講じながら総会等を実施しました。

■本年度の成果

新型コロナウイルス感染症の影響により活動に様々な制約等がありましたが、活動を通じて、子どもの居場所づくり、地域の人との交流等の目的の達成はできたと考えます。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

活動スタッフの減少・高齢化等の問題があり、いかに確保するかが長い間の懸案事項になっています。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱なし

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

2022年度導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

手指消毒及び検温の実施、活動中の密対策をとりながらの活動を行いましたが、特に放課後子ども教室における子ども達の密対策は仲間づくりの観点から、難しいこともありました。

野洲市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域、保護者、PTA 等の参画の下、地域全体で子どもの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互に連携・協働する姿

■本年度の具体的活動

10月 運営協議会開催

11月 コーディネーターと学校長の意見交換会

■本年度の成果

本市では平成23年度より、学校、保護者及び地域の代表者で構成する「学校応援団」を組織し、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めてきたが、昨年度から、「地域学校協働活動」に活動の範囲を広げた。

このため、運営協議会を開催し県CSアドバイザーの助言を受け、今後の地域と学校との協働のあり方を学んだ。

各本部においては、学習支援、環境整備、見守り活動など年間を通じて協働活動が実施できている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

これまで本部ごとに独自の活動を行ってきたが、その地域の独自性は活かしながら、学校を核とした地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業に取り組むを進めたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

これまで、学校応援団活動の中心となっていた方を、地域学校協働活動推進員として、全ての本部で委嘱した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

既存の学校評議員制度を活用し、地域学校協働活動と連携しながら地域の実態に応じて拡大・移行していく予定。

平成30年度から学校運営協議会検討会を立ち上げ、県のCSアドバイザーの指導を受けながら研修を重ねている。



【野洲市学校応援団運営協議会開催】

野洲市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] □地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活動する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを行っている。

- 4月 委員委嘱
- 5月 第1回運営委員会（書面議決）
- 10月 意見交換会
- 11月 県教委訪問受け入れ
- 2月 第2回運営委員会（実施予定）

■本年度の成果

- ・地域子ども教室を通じて、子どもたちの協調性や自主性、社会性が育ってきている。
- ・地域の方が地域子ども教室に関わってくださることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という雰囲気が出来ている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・教室を運営して下さっているスタッフの確保が難しくなっている。市民活動サークルとして登録されている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は、市職員が事務局として担っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校運営協議会については、協議中である。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

コロナ禍での教室開催となったため、不安や悩み、教室の開催方法などの情報交換ができるように、意見交換会を実施した。

施設利用の制限やスタッフのコロナへの不安などを考慮すると、今まで通りの教室運営が困難であることが課題である。

湖南省における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力がつく湖南省教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』を太くする」をスローガンに掲げ、「学力保障」、「仲間づくり」、「地域との協働によるふるさと意識の醸成」を取組の三本柱としている。「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、地域と一体となって子どもたちを育て「地域と協働する学校づくり」を推進している。

■本年度の具体的活動

- 市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議 年2回
 - 第1回 4月21日(火) ・湖南省教育指針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知
・地域コーディネーター委嘱状授与 ・地域学校協働活動推進事業等の進め方について
→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止し、紙面伝達とした
 - 第2回 各中学校区において開催
 - 石部中校区 11月30日(月) 甲西北中校区 12月8日(火)
 - 甲西中校区 12月10日(木) 日枝中校区 12月11日(金)
- 取組状況・情報交換、コロナ禍における対応工夫、今年度の成果と課題と次年度事業構想意見交流
- 甲西中学校区学校運営協議会設置準備委員会(市学校運営協議会設置推進委員会より発展)
 - 第1回～第5回は設置推進委員会 第6回より設置準備委員会
 - 令和3年4月設置予定

■本年度の成果

- ・それぞれの取組の情報交換と交流につながるよう、各校の実践をリーフレットとしてまとめ、各校学校運営協議会や地域学校協働本部の資料とすることができた。
- ・管理職を交え、地域学校協働活動推進員の連絡会を開き、成果と課題を明確にし、また共有することができた。次年度の推進方向が確認できた。
- ・コロナ禍の中にあつての活動であったが、「しない・できない」ではなく、どのようにしたら子どもたちとともに活動ができるか試行錯誤の中、創意工夫ある取組が多く見られた。対面・集合しての活動が難しいものについては映像化して視聴するなどの工夫が顕著であった。
- ・学校運営協議会については、市内で未設置であった1中学校区について、今年度より推進委員会から準備委員会に発展し、次年度設置に向けた取組が進捗した。
- ・まちづくり協議会とのつながりを深め、スクール・コミュニティづくりに取り組むことができた

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・持続可能な事業継続には地域学校協働活動推進員をはじめ、地域の活動支援者の広がりや人的な継承が大切である。この点においては創設期からの支援者の高齢化が顕著で課題も大きい。また各地域学校協働本部の活動資金面での経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やNPO法人等との連携・協働を一層進めていく必要がある。



【学校運営協議会設置準備委員会での熟議】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・地域学校協働活動推進員全員を委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・13小中学校の内、10校導入済み。残る3校は地域の特性を生かし中学校区での学校運営協議会設置を検討している。令和3年度4月の設置を目指している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・活動を停止している期間に、今後の活動と事業継承を見据えてマニュアル作りに取り組んだ。
- ・対面・集合しにくいものについては映像化を通して子どもたちの活動支援とした。
- ・高齢世代の活動者が多く、感染症対策をしても積極的に事業推進しにくい。

高島市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

地域の住民が地域学校協働活動を通し「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の間をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティの形成をめざす。

■本年度の具体的活動

○地域学校協働活動推進員協議会（定例会）の開催

市内6本部が輪番で開催し、当該地域の推進員から

- ①これまでの本部の経過
- ②今年度の本部活動報告
- ③本部活動の課題 について報告・協議した。

○学校運営協議会と地域学校協働活動の連携状況調査

学校運営協議会との一体的な推進を目指し、教育委員会事務局職員（学校教育課、社会教育課）が各校の学校運営協議会にオブザーバーで参加し、協議の内容や委員の意見を傍聴し、地域学校協働活動との連携の状況を調査した。



【地域学校協働活動推進員協議会】

■本年度の成果

地域学校協働活動推進員協議会では、本部ごとに異なる課題を推進員全員で共有し、その解決に向けて意見を出し合った。コロナ禍での活動のあり方、学校運営協議会との連携の2点がどの本部にも共通する課題となっているが、コロナ禍の活動では他の本部で取り組んでいる活動を参考に取り組みを進めた。学校運営協議会との一体的な推進に向けては、学校規模やこれまでの学校支援の状況によって進め方が異なることから事務局で連携状況を調査した。今後、推進員が学校運営協議会との連携を進めていく上での資料として活用したい。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動が市内全中学校区でスタートしてから令和2年度で3年目となり、徐々に活動が広がりを見せ、学校や地域で定着し始めた矢先に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動が制限されてしまった。今後、コロナ禍でも多くの地域ボランティアが参画し、多様で継続的な活動ができるよう工夫を凝らさなければならない。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

中学校区ごとに地域学校協働活動推進員を委嘱し、7名を配置している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

小中学校の19校全てに学校運営協議会を設置している。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

子どもと直接触れ合う活動は避け、グラウンドなどの環境整備や登下校時の見守りを重点的に行った。また、中学校では、コロナ禍でも何か地域支援活動ができないかと検討していたところ、昨年度につながりをつくった地域の社会福祉協議会からの声掛けもあって、医療従事者用の防護ガウンの作成を行うことができた。

東近江市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの心豊かな成長を支え、地域を創生する持続可能な活動を推進していく。

■本年度の具体的活動

- ・本部長及び地域学校協働活動推進員合同会議の開催（6月・1月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（10月・2月）
- ・東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催
（小学校：7月・11月／中学校：8月・12月／小中合同：9月・3月）
 - （1）各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
 - （2）少人数でのグループワーク
 - （3）県研修会等の報告
- ・県教育委員会主催研修会への参加

■本年度の成果

- ・令和3年度からコミュニティ・スクールのモデル校を導入するにあたり、6月の合同連絡会に滋賀県CSアドバイザーの伊藤照男先生をお招きし、コミュニティ・スクールのあり方について学ぶことができた。
- ・地域学校協働活動推進員連絡会では情報交流に時間を取ったことで、コロナ禍の中で「今だからこそできることは何か」「どんな取り組みができそうか」というテーマについて、それぞれの取り組みや思いを交流することができた。
- ・本部長と地域学校協働活動推進員との連携を深めるために合同会議を開催した。
- ・各本部において、ボランティア会議等で活用いただくために、各本部の活動をまとめたリーフレットを作成した。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

- ・市街地や山間部等、各地域の特色を生かし、持続可能な活動を見出し推進していく。
- ・地域ボランティア等の人材確保が必要である。
- ・学校と地域学校協働活動推進員との無理のない連携体制を構築していく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成30年度から教育委員会委嘱（令和2年度28名）

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

令和3年度より、市内2小学校をモデル校として導入予定

■コロナ禍における対応・工夫および課題

- ・できるだけ大きな部屋での活動や、屋外・学外での活動
- ・学校の環境整備等、直接子どもや生徒と関わらない場所での活動



【 合同連絡会の様子 】



【 推進員連絡会の情報交流 】

米原市における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもの中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域学校協働活動もその仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

(1) 学校運営協議会委員研修会（中止）

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止とした。例年は学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割等について理解を深める研修会を開催しており、市職員による行政説明の後に、学校ごとに意見交換を行っている。

(2) 教育フォーラムの開催（本年度は柏原中学校区のみ実施）

中学校区	日 時	内 容
柏原中学校区	11月27日	〇はびろ学習ラリー（生活・総合）を実施し、学運協委員による参観を実施
大東中学校区	中 止	
伊吹山中学校区	中 止	
米原中学校区	中 止	
河南中学校区	中 止	
双葉中学校区	中 止	

■本年度の成果

〇市内すべての小中学校（9小学校、6中学校）および市内の各園が参画し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、各校区で実情に応じた協働活動を実施した。

〇今年度新たに4校で学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動と連携した活動を進めることができた。

〇教育フォーラムは7年目の開催となる。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は多くの中学校区で中止となったが、例年は地域連携や保幼小中連携の在り方を考える機会となっている。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

〇学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況・・・今年度から委嘱を行っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・平成30年度 中学校3校をモデル校として新規に導入（伊吹山中、米原中、河南中）
- ・令和元年度 小学校7校、中学校1校を追加
（山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小、柏原中）
- ・令和2年度 小学校2校、中学校2校を追加
（柏原小、坂田小、大東中、双葉中） ※市内全小中学校に設置完了

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に！ふるさと日野学習の推進

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校、家庭および地域住民みんなで役割と責任を自覚し、日野町の宝である子どもたちを健やかに育む体制づくりを確立する。子どもたちの成長を支える「日野町地域学校協働活動推進本部」を設置し、「ふるさとを愛し ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域を誇りに持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして地域と学校が連携・協働して学校教育を支援する。

「日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ」を合言葉に、地域学習を充実させ、地域と連携し、子どもたちが夢や志を持ち、共に育ち、共に生き、ふるさと日野に愛着と誇りを持てる子どもたちの育成を目指している。

■本年度の具体的活動

小学校では、4年目、中学校では3年目を迎え、前年度末に活動内容の構想をたて、意欲的に取り組みを始めるようにした。

今年度はコロナ禍のため、定期的な実践交流会が実施できなかったが、学校と地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）との打合せには電話やメールでの連絡を頻繁に行うなどの工夫で乗り切り、各校の教頭を中心に情報交換を行い、慎重な感染症対策を行いつつ活動を活性化する方法を模索してきた。

校長会や教頭会などでも、各校の取組状況の交流を図り、「特色ある学校づくり」のための工夫、感染対策への配慮などについて意見交換を行った。



【地域学校協働活動
推進員実践交流会】

■本年度の成果

1学期については、コロナ禍における活動の制限があり、事業の進捗が大変心配されたが、2学期以降はふるさと絆支援員のコーディネートにより、徐々に活動が再開できるようになってきた。また、放課後子ども教室・地域未来塾についても、学習の遅れを心配する児童・生徒や保護者の支えとなり、少ない人数で個別に指導を受けられる喜びを感じたり、自分の力の伸びを実感したりする子どもが増えた。

南比都佐小学校では、地域の特産物である日野菜の栽培に全校児童が取り組んでいる。なかでも4年生児童が11月に日野菜の植替え作業を行い、5年生に進級後の6月に種の収穫を行うために、日野菜原種保存会の方にご指導をいただき、年間を通じた栽培学習に取り組んでいる。今年度も、感染症対策に十分な配慮をしながら、充実した体験学習を実施することができた。

各校ではスタッフアンケート等を取り、ご支援いただいた皆さんへの感想や意見等を参考にしながら、協働活動を計画的に実施することができた。



【毎年5年生が種を収穫！
日野菜栽培（南比都佐小）】

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

団体のボランティアの皆さんにご支援いただくことが多かった。各校における学習支援については、例年に比べて地域の大学生の協力等は得にくかったが、各校の学習支援員を中心に支援いただいた。感染の心配が軽減することを願い、次年度も地域の方による学習支援の輪が広がるような協働活動が進められるようにしていきたい。

昨年度まで実施してきた「夏休みチャレンジ教室」は、本来ならば今年度で6回目の実施となる予定であったが、コロナ禍による4・5月の臨時休業による欠時を回復するため、今年度は夏休みを大幅に短縮したため実施を見合わせた。保護者や子どもたちからも参加したいというニーズが増えていたため大変残念であったが、次年度はぜひ再開し、勉強がわかる楽しさを実感させたいと考えている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・日野町地域協働活動推進協議会には、各学区の地域学校協働活動推進員（ふるさと絆支援員）6名、青少年育成町民会議会長・町少年センター所長・学識経験者・小中学校長会代表・町PTA連絡協議会代表・町公民館長代表・各小中学校教頭6名の合計18名で構成され、教育委員会より委嘱されている。
- ・各小中学校区に地域学校協働本部を設置し、PTA・学校評議員メンバー等に地域学校行動活動推進員を委嘱し、各校の教頭と連携を図りながら、ふるさと地域学校協働活動推進員が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

現在、令和3年4月からの日野町学校運営協議会規則の施行に向けて、準備を進めているところである。地域学校協働活動をさらに発展させながら、令和3年度の準備期間を経て、令和4年度・5年度にかけて各校での学校運営協議会の発足を目指している。

竜王町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 □地域未来塾 □放課後子ども教室 ■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、地域学校協働本部の事務局を公民館に置くことにより、公民館講座受講生や公民館を拠点に活動される団体等の情報等を把握することができ、優れた技術を持っている地域の方を、学校（園）と結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上をめざしている。そして、公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で一人ひとりの人生をより豊かにすることで、まちづくり活動の推進へとつなげたい。

また、今後は、地域学校協働本部と学校運営協議会が連携を密にすることにより、今までの「支援活動」から、「連携・協働活動」になることを目的に、地域が学校や子どもたちを応援・支援するという一方向の関係から地域と学校が「双方向」の関係性を築いていきたい。

また、学校だけでは学べない地域の文化や歴史等を学びながら、体験することができる土曜日の教育支援活動「竜王キッズクラブ」を開講し、児童自身が地元へ愛着を持つことはもちろんのこと、両小学校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■本年度の具体的活動

（地域学校協働活動）

- ・毎月：統括地域学校協働活動推進員・地域学校協働活動推進員会議（定例会）の開催。
- ・年2回：地域学校協働本部だよりの発行。（上半期、下半期）
- ・通年：学校園応援団（ボランティア）の募集。

（土曜日の教育支援）

- ・通年：各クラブでの活動
- （共通）
- ・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。

■本年度の成果

（地域学校協働活動）

- ・地域のボランティアと園児・児童・生徒が顔見知りになることで、人間関係や地域でのコミュニケーションが密になった。
- ・本年実施した「はなまる先生」の成果により、自宅学習が身につく、児童の学力が向上した。また、今まで自宅学習の採点等を教員が行っていたが、ボランティアが行うことにより、教員が児童と向き合う時間を増やすことができ、より親切丁寧な対応ができるようになった。

（土曜日の教育支援）

- ・普段、学校では交わることのできない異学校や異年齢の児童が、クラブ活動を通じて、一緒に学び、体験をする交流の場を持つことができた。
- ・様々な体験を通じて、心身ともに成長をすることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

（地域学校協働活動）

- ・学校の依頼に応じて、本部でボランティアの調整を行い、派遣をする段階にとどまっており、チームを作って支援できる体制の構築には至っていない。チームとして支



【大根栽培サポート】



【サイエンスクラブ日野川の石採取】

援するためには、リーダーの育成が必要であり、リーダーとなる人材を発掘し育てていく必要がある。

- ・新型コロナウイルス感染症により学校が休校となった影響で、例年であれば1学期に対応している支援が減少。ボランティア登録者数は、年々増加しているが、支援内容により支援に協力できる人の偏りが生じている。

(土曜日の教育支援)

- ・土曜日の教育支援活動(竜王キッズクラブ)にて、講師となる人材の発掘・継続が必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

- ・地域学校協働活動推進員を5名委嘱している。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

- ・市内の2幼稚園・2小学校・1中学校にコミュニティスクール(学校運営協議会制度)を設置。今後は地域学校協働本部と学校運営協議会が連携をし、今まで続けてきた活動を更に発展させ、コーディネート機能を強化しつつ、地域住民の協力を得ながら活動の幅をより広げ、継続的な地域学校協働活動を実施し、発展させていきたい。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

(地域学校協働活動)

- ・新型コロナウイルス感染症により、学校への支援を行う際の感染症対策の徹底(マスク、消毒、検温等)。
- ・支援中は、子どもたちとの距離感を保ちながらも、親身な対応を心がけている。
- ・学校からの急な依頼に対応できるボランティアが少ない。

(土曜日の教育支援)

- ・参加者が子どものため、感染症対策を徹底できるまで自宅学習等を取り入れた。
- ・例年は、クラブ活動には兄弟や家族の同伴を可としていたが、参加人数の密を避けるために、クラブ生のみでの参加とした。
- ・吹奏楽教室等は、飛沫感染を防ぐため、対面では行わないことや、楽器ごとに練習を行い、少人数での練習を実施した。
- ・クッキングクラブでは、今まではグループで協力しながら調理をしていたが、1人ずつが自分のものを調理することや、クラブ時や終了後の飲食を禁止とし、必ず持ち帰りをする事とした。



【チャレンジクラブ 起震車体験】

多賀町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 □放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。少子高齢化・人口減少という本町の課題に対して、「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、安心して子育てのできる施策を充実させ、町の活性化を図っている。

また、地域の大人が子どもと顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人は子どもと共に活動することを通して、持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができ、子どもは、地域の歴史や伝統を学び次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

- (1) 登録者に対するボランティア研修会の開催
コロナ禍で当初の計画の研修会は実施できず、彦愛犬地区主催の「読み聞かせ研修会」に参加し、活動のスキルアップを図った。
- (2) 読み聞かせ・職場学習・屋外での環境整備活動の充実
今年度、中学生の職場体験の代替として資格を持つ方々による職場学習（講話と実践）を行った。さらには、中学校特別支援学級で初めて花作り・野菜作りの支援をおこなった。大きく生育し野菜を収穫販売することができた。生徒の笑顔がボランティアさんの喜びとなった。
- (3) 「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」「放課後見守り（学びっこタイム）」の実施

多賀中学校の生徒を対象に、提携塾から派遣された講師による学習講座（土曜講座）を実施している。また、大滝小学校の低学年児童を対象に、地域サークルやボランティアの方による、宿題の見守りやよさこい等の体験活動（学びっこタイム）を定期的に行っている。



【土曜講座での教育長挨拶】

■本年度の成果

- (1) 研修会に参加することで、参加者のスキルアップを図るとともに、ボランティア同士の交流や意見交換が活発におこなわれるようになった。
- (2) 学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備など、ほぼ毎日先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。職場学習では中学生の今後の進路において貴重な体験を身近で実感することができた。
- (3) 土曜講座・学びっこタイムは、小・中学生の学力向上を図るとともに、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今年度は活動が制限されたため、毎年活動を楽しみにして下さる方等以外にも、広く活動を知っていただくために広報等を活用。FAXや有線放送、ロコミ等で随時ボランティアを募集している。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「校園の子どもにとり、どのような地域支援が必要か」「地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めるか」等について、CSアドバイザーの指導を受けた研修を重ねている。多賀町に相応しい学校運営協議会を導入するため、他市町の取り組みも参考にしてイメージを膨らませ、今後の具体的な方向性を探っている。



【理科学習（消費電力の違い）】

■コロナ禍における対応・工夫および課題

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、土曜講座会場を町立博物館から多賀中学校に変更し、換気・消毒等の徹底を行った。読み聞かせでは、マウスシールドを活用し、コロナ対策および表情が見える工夫も追加。園児や児童は密を避けるため、少人数実施や椅子で距離を保つなどの対策をしている。

豊郷町における地域学校協働活動の取組

[取組状況] □地域学校協働本部 □地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

[放課後子ども教室]

- ・地域の力を活かし、町内の小学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。
- ・町内の小学生を対象に、学校・学年が違う子どもたちや地域の方と関わり、様々な体験活動をすることで、生きる力や協働する大切さを学ぶ。

■本年度の具体的活動

[放課後子ども教室]

(1) 小学校夏季休暇中の学力補充教室

復習プリント等を使い、子ども達がわからないところを教員やボランティアが個別に指導し、課題の採点などを行った。他にも、科学実験工作教室や百人一首、かるたを用いた学習などを行った。

(2) さとっこふれあい教室・とよっ子探検隊(各2～3回)

1～3年生のさとっこと4～6年生のとよっ子に分けて事業を実施。さとっこは15名の定員を設けて参加者を募集。地域の方を講師として迎え、ものづくりやスポーツなどの活動を行った。とよっ子も各回15名の定員を設けて募集。自然体験やものづくりができる施設に行き、体験活動を行った。

■本年度の成果

[放課後子ども教室]

- ・夏季休暇中の学力補充教室では、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につながりすることができた。
- ・とよっ子探検隊・さとっこふれあい教室では、学校や学年の違う子どもが、班活動を行うことにより、普段関わることが少ない子ども同士の交流を図ることができた。また、体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。

■課題と今後の協働活動の推進に向けて

- ・地域の方に事業の協力をお願いしているが、年々確保が難しくなっている。
- ・参加希望者が固定されつつあるため、参加したことのない子どもへのアプローチが必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画 学校評議員を委嘱しているが、学校運営協議会は導入していない。

■コロナ禍における対応・工夫および課題

三密の回避や消毒・手洗いの徹底。開催時期や実施時間、開催規模については、感染拡大状況を考慮した上で決定した。そのため、開催時期がずれ、実施回数については例年よりも少なくなった。



【さとっこふれあい教室の様子】



【とよっ子探検隊の様子】